148
特 253
197

現代パンフレット

教員赤化の跡を眺めて

（十月上旬版）

事実を曲げず誇張せず、況んや創作を交へたる商品的技巧作為は断然排撃して純正なる批判をなし批評家として良心にのみ従ひ権勢に屈せず情実にも囚はれざる現代世相パンフレットとして存在す。

現代パンフレット通信社　岸田菊伴

新東京社版

342
41

①

0042623000

0042623-000

特２５３－１９７

教員赤化の跡を眺めて

岸田菊伴・著

現代パンフレット通信社

昭和６

AHD

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特253
197

岸田菊伴著

教員赤化の跡を眺めて

現代パンフレット通信社

帝国図書館蔵
昭和八・一〇・二〇・内交

教員赤化の跡を眺めて

目次

一、驚くべき小学校教員の赤化……彼等の裏には爆弾をもつ反宗同盟……一
二、教員赤化の径路……埼玉縣に於ける十訓導の足跡……五
三、同志の連絡機関「雑木」……校長が指導し学務課が検挙したもの……九
四、舊き頭脳の指導者……精神のこもらぬ啓蒙運動……一三
五、赤化教員の歩んだ道……深き浅き意識のいろ〳〵……一七
六、文教行政官は何と見たか……その対策を如何にしたか……二一
七、児童と家庭にどうひびいたか……踏み迷うたる若き教員は？……二五
八、現下の二大問題を何と視る？……教育関係者の一顧を求む……二九

教員赤化の跡を眺めて

岸田菊伴

一、驚くべき小学校教員の赤化

――彼等の裏には爆弾をもつ反宗同盟――

北海道旭川師範學校に於ては本年六月二十八日三學年生野木茂平（假名）外六名が、左傾思想にかぶれて非合法実際運動に参加してゐる形跡露見、突如退学を命ぜられたる咄々怪事あり、同じく六月、京都府下でも現職小学校訓導が新興教育研究所支局を新設して、極秘の裡に全協系の魔手を教育界に延べんとした事から懲戒罷免の処分を受け、秋田縣にも日本教育労働者組合秋田支部設置に、小学校教員が現職のまゝ暗中飛躍を試みたる椿事を発見して、遂に当局の処断を受け、沖縄縣に於ても教育労働者組合結成事件の検挙あり、其他新潟、岩手、千葉、埼玉の四縣下にも之等と相似たる現職小学校教員赤化事件ハ頻々として発見され、東京府西多摩郡五日市町尋常高等小学校訓導浦辺史（二七）が、本年六月

四日午前中勤務先より突然拘引されて八日には懲戒罷免せられたるが如き、或は埼玉縣北足立郡蕨町第一尋常高等小學校の、新井靜夫横川亮一両訓導がこれ亦出勤執務中突如として検挙拘引され、諭旨退職の処分を受け之と同様退職せしめられたる小学校訓導七名を出し入間郡所澤町尋常高等小学校訓導関口幸市(二四)の如きは、浦和地方裁判所検事局へ身柄送りとなり遂に懲戒免職を受くるに至れるなど、續々として起る教員赤化事件は、未だ曽て無かった一大センセーションを全日本の教育界に起した。

啻に日本内地の一道二府六縣下のみではない、昨年来インテリ層に延ばされて来た全協系の赤手は海を越えて朝鮮にも及び、慶尚南道泗川郡昆明公立普通学校長上甲米太郎(二九)が東京市神田区神保町ビル内新興教育研究所の創立主唱者鹿児島縣師範学校出身山下徳次(四〇)と連絡して、日本教育労働者組合の結成による教員赤化の策動を開始し、全組合の提唱者組織部長井口進(二九)とも連繋を保ちて、已に官立京城師範学校演習科在学生菊池輝郎(二〇)全趙判出(二〇)両名の内鮮人を中心に、多数の全学生を抱き込まんとした陰謀事件が、端なくも同志の往復文書から発見され、危く一大事件とならんとした瞬間に、朝鮮総督府警務局の探知するところとなり、上甲米太郎を初め前記五名を検挙したのは昨年十二月の事であったが、本年八月八日豫審終結していづれも治安維持法違反に問はる、事となった。

かうした傾向は内鮮全地域にわたる小學校教員網のみでなく、東京市役所教育局内にも學務課勤務の書記山田辰弥(二六)が、本年六月中旬から全協系一般使用人組合のフラクションを計劃し、一ヶ月半の後同局内に四人の同志を獲得した時忽ち警視廳当局の発見するところとなり、右山田書記外四人を拘引して厳重に取調べを進めたところ、全協市役所支部の創設に火元は土木局から発して教育局に及んだ事まで判明した。のみならず上述五日市尋常高等小学校の浦辺訓導の如きは、北豊島郡を初め各地に発見さる、もの頻出し、中にも自己の受持つ児童の中から頭脳のさえた優秀なものを撰び、秘かに自宅に呼びよせて巧みに赤い思想を植え付け、暑中休暇を絶好の機会として續々かうした潜行運動が随所に起って来た。

そこへ又東京市神田区袋町一二の文化學院では、前に述べた新興教育研究所の主催で、八月五、六、七の三日間新興教育講習会を開く、一方本郷三丁目の明治製菓三階では新興教育プロレタリア展覧会を開くと云った勢ひ。

更に一方では非合法組織になる反宗教闘争同盟が著るしくその組織を擴大強化し、全日本に亘って極左運動を開始し、教員赤化の企劃に油を注ぐようになった、かくて教育界赤化の火は炎々として燃え上っていった。

斯くの如きは唯單純なる思想運動であると解して、冷やかに觀過すべきでない、その形式は讀書会といふような研究的の形をもつて進んでゐるにしても、そこに見るべき革命的萠芽が芽生えてゆく事は見逃がしてはならない。

八月中旬反宗教同盟運動と称する極左陰謀が暴露して、東京市本郷区三組町七三優間方の二階がその秘密本部である事を探知した警視廳特高課に於ては、所轄西神田警察署の應援を求めて電光石火の急襲をなし、二階に潜んでゐた財政部長宮武住辰(二六)検挙し、機関雑誌『反宗教』の配布網住所氏名簿二冊と極左運動重要書類等々を発見押收したのみならずダイナマイト雷管九十個の押收さへもしたのであつた。

この住所氏名簿からたどり出されて検挙さるゝに至つた現職小學校訓導があつたといへば如何にそれが危険な傾向をもつてゐるものであるかは之を窺知するに十分であらう。

反宗同盟の今一つの隠れ家は、本郷金助町本田方なる事が続いて発見され、八月二十四日の夜本富士署の急襲となり、伊藤静枝、安藤三郎、田中中、朴突、池田すみの五名が一網打盡に検挙され、八月二十九日の日韓合併記念日、九月一日の大震災記念日、仝六日の青年デーに於ける指令、アヂビラ、ポスター等を押收したといへば、実に間一髪の危機を辛うじて事前に免かれ得たものといふべきである。

二、教員赤化の径路

——埼玉縣に於ける十訓導の足跡——

行財政整理に伴ふ冗員の陶汰……冗員といふやうなものが官衙公署にあつたかどうかは私たちにもわからないが、兎に角切りつめられるだけ切詰めて行かうといふ赤字補塡の一方法、それが遠慮容赦もなく小學校の方へも及んで来た。

即ち學級整理といへば名分は立つやうだがその実二部教授の実施に伴ふ教員の減員、代用教員、補助教員、專科教員等々の罷免、減俸、不拂ひ等の出来事によつて既に相当神経を尖らせてゐた矢先へ、ひた押しに押して来た、かうした異変……然り彼等にとつては極めて重大なる異変である。こゝに小學校教員は狼狽へないでは居られなかつた。

勿論、彼等の任務、名に於ては美しい個性教育とか人格教育とか高尚な教育上の理想に生きてゆく人としては、狼狽へてはならない動揺してもならない筈ではあるが、さてその理想と云ふものも実は美くしい看板だけではないか、実をいふと單なる実用主義……切那主義一点張り、而かもそれが天降り的に教育を賣物として取扱ふのであつて見れば、畢竟生活の為に動くのに過ぎないわけである。

その生活が動もすれば脅威されもうとしてゐる時、動揺するのも無理ではない、狼狽へてはならぬといつたところで其が無理である、況んや、多少でも理想を描いて社会に生きてゆかうとした若き教育者が、あまりにも彼等の理想とかけ離れたる世相を見せつけられて深き憂欝と堪えがたき懊悩とに押へつけられてゐる時、時代の跫音に耳を傾けることに何の不思議があらうか?

かくて赤化教員検挙といふあわたゞしい事件がそこにもこゝにも持上つた、それは彼等の組みした所の組合が非合法結社の『全協』であつた為であり、『全協』の持つスローガンが國法の範囲を超えたものであるからである。

殊に彼等の撰んだところの研究目標が、現段階に於ては大學に於てさへもその自由を許されないマルキシズムでありレーニズムであつた為でもある。

彼等の行動は明らかに××××××の旗の下に、全無産大衆の××の為に、実際行動へのファストステップを踏み出したものであるに違ひない、その事件に関聯したメンバーの一人一人について検討した時、よし仮令意識の高下はあつたとしても兎にも角にも年若き教育者の胸に欝積し切つて居た憂欝さを吹き飛ばし、傳統と歴史とに輝ける小學校訓導の椅子を惜げもなく抛棄してしまつたのである。

彼等がもつたところの一般使用人組合教育労働部の前身たる日本教育者労働組合の支部結成大会は、埼玉縣に於ては昭和五年十二月二十七日志木町に於て開催された、さうして松山、岩槻、川越、志木、所沢等の各地に於てその後も続行され、彼等のメンバーの一人である東京市外大井町の藤田弁護士宅が、より多くビューロー会議や委員会などに利用せられたものである。

かくて支部責任者となつた関口幸市訓導を初め、ABCの各班、組織部会計等の責任者を決定したもので、その支部がまだ日教準備会と呼んで居た頃は……即ち本年六月上旬頃までは、D班ともいふべき寄居地区が在つて十数名の勢力を保持してゐたし、勿論ビューロー会議や委員会にも代表者が出席してゐたもので、仝方面には埼玉縣師範の出身で、全國農民組合青年部の闘士として内笹井富次といふはたらき者が居た、青年が階級意識に目ざめてゐる点では埼玉縣でも有数な土地である。だから当然現職に在る教員の中からも日教傘下に馳せ参ずるものはあつた。

大里郡櫻沢小學校の高橋幸吉、北條英などを初め、赤化の嫌疑から退職を余儀なくせられた人たちは、いづれも内笹井の影響を受けないものはなく、さうした空気から全農青年部への動向は可なり着々しく見えて来た。

その時恰かも深谷事件と称する全農青年部員の一斉検挙があった、断の一斉検挙がひどく日教支部の人々を驚かせて、寄居地区の彼等は『全農』に加盟してゐるからといふので、決然関係を断たしめるようになつた。

だから『日教』が本年六月に及んで『一般使用人組合教育労働部』と改称するに至りて、本縣支部も又準備会の殻を脱して完全に支部を確立し、名称も亦恐ろしく長い『一般使用人組合教育労働部埼玉支部』と改められた。

支部準備会結成後前後七回に亘りて本部の指令に基づき、支部ニュースを刊行配布し、全協が掲げるスローガン中から埼玉縣支部が強調するものを選定し、我が國極左諸團体の機関紙たる『無産青年』、『第二無産者新聞』『労働新聞』『戦旗』『救援新聞』等の各種秘密出版物を各班及び分会等に配布し、漸く同志獲得の地下運動は熾烈となつて来た。

この間、勿論教育労働部の機関紙『新興教育』により所謂エドキンテルンに基づくマルキシズム教育理論の研究を続け、前に述べた減俸不拂等の問題を階級闘争へと結びつけ、やがてはピオニールの結成へと漸やくその実勢力を展開しようとした時、突如としてその秘密は暴露し、東京で押收された名簿から足がつき、北足立郡蕨第一尋常高等小学校の新井横川両訓導から、火の手はだん／＼延焼して九校十訓導に及んだものである。

三、同志の連絡機関『雑木』

——校長が指導し、學務課が検閲したもの——

埼玉縣で問題になつた十人の訓導はいづれも前途を嘱望せられた才能ある教員であった事は注意すべき一事である、殊に彼等は一様に文藝的才能に恵まれて居たのも事実で、それが幸か不幸か誘惑の魔手は文藝の方面からものべられて、彼等がいひあはせたようにプロ文學に親しみ耽つて居た事も見のがしてはならない。

文藝から色づけられていつた彼等は又、一面に於てはその文藝を武器にして同志(?)の獲得運動にも利用した事実がある。

それは私の小著『共産党秘話』二一頁に書いておいた、『藝術の假面にかくれての共産主義宣傳運動は全年(昭和三年)十一月のナップ大会を機として全然別の様式によつて頭を擡げて来た』といつてるのと、全然内容を一にするものではないか、多かれ少なかれ彼等の戦線の一翼をたすけ得べきものであつたことは想像される。

即ち此足立郡教員会の作文研究雑誌『雑木』こそは、彼等が縣学務課検閲といふ金看板の下に、而して善良にして且つ穏健なりといはれた蕨第一尋常高等小學校長尾上三郎氏の

直接指導監督を受けて居たといふ、合法的に且つ合理的に獲得したところの、有力なる同志連絡機関であつた、匿名の同志集会所でもあつたか学務課は勿論、直接交渉をもつて居た尾上校長にすらそんな事は想ひもそめなかつたといふ。

而かも検挙の火の手一たび挙がるや、この重大なる役割をもつた『雑木』は、逸早くも司法当局の注視の的となつた、それは菊版五十ページ大の小雑誌で、而かもその印刷は浦和刑務所の印刷工に於て引受けられて居たといふのも一種の皮肉である。

已に五号まで発行してゐるが、内容は児童の作文と教員のこれに関する研究、若干の傾向と、二十歳台の青年の哀愁を盛つた詩歌短文といふような、形は至つて平凡なものであつたから、温情の人といはるゝお人よしの尾上校長には一向気がつかなかつたものらしい、かゝる合法的な『雑木』に、当局が忌むところの赤化思想が如何なる手段で育てられ、未曽有の教員赤化事件を発展させたかは、一寸その『雑木』の紙面を一瞥し、その盛り込まれたる文藝を通読しただけではわからない。

けれどもそのわからない間に、『雑木』のメムバー三十余名の大多数が知らぬ間に一部の急進分子は左への道を一筋に突き進んで居た事実は歴然と認められた。

而かもこの二月には『雑木』を中心とした非合法結社の結成にまで、彼等の策動が表面

化して来た事は抑々何を語るものであらうか。

以上の事実を提げて私は尾上三郎氏を訪ねた。

『何分、部下から二人までもあゝした不心得な者を出したといふ事は申訳がありません』

かういつて唯々恐縮の体で私に語る、私はいつた。

『私は、ナニも貴下を呵責する意味でお話ししてゐるのではありません……』

けれども尾上氏はマルで被告が検事の前にでも出て居るかのような態度である。私は重ねて慰めるような口調でたづねた。

『神ならぬ人間に、何でも洞察ができる者のものではありませんから、貴下がお気のつかれなかつたのも無理はないです、が併し雑木の原稿は一應目をお通しになつたのですか？、そしてあの中にさうした臭ひはなかつたのでせうか？』

『それがサア、今から讀んで見てもどうも私にはのみ込めないのです、ナニもそんなわるい事は書いてないですからね』

『わるい事は書いてない』？　然りわるい事など書いてはたまつたものでない、そこに彼等独特の潜行的戦術がある、さうしたことに今も猶気がつかぬ様な温良（？）な校長に期待すべき何ものをも私はもち得ない。

尾上校長は重ねていつた、
『併し、文藝に趣味をもつて居た彼等ですから、プロ文學に親しんで居た事は私にもよくわかつてゐました、さうして職員会のあとなどで、最早時代は急轉した、どうしても経済至上主義でなくてはだめである、マルクス・エンゲルスの唯物史観こそは必らず一わたり読んで見るべきものだなどと、一知半解の提言をしてゐた事もあるから、哲学を研究するのなら、カントの純粋理性批判まで行かなくてはだめだといつてやつたのでしたが、彼等は毫も自省するところがなかつたようです……』
私は唖然としていふところを知らなかつた、マルクスの資本論に誤謬があるとは最近学者の間に指摘されて来た事実であるが、其と同じようにカントの認識論にも誤謬ありと、『規範経済學』の著者岡本利吉君は堂々論難してゐるではないか。尾上學校長にして少くともかうした書物を一読してゐたならば、さような月並みな一言で片付けようともしなかつたであらうが、惜しいかな小學校の形式教育に没頭して自己修養に精進する事が足らない。従つて新らしい書籍雑誌などは読まうともしないから、いつの間にか時代の進運におくれて遥か彼方に取りのこされた人となつてしまふ、そこに新時代の空気を吸ふて居つた若き教員などとは相容れない隔たりが起つて来るのも止むを得まい。

四、旧き頭脳の指導者

——精神のこもらぬ啓蒙運動——

『規範経済學』の著者岡本利吉君は、静岡縣沼津に開かれた講演会に於て語つた。
『……独逸の思想界へ偉大なる二人を送り出した、マルクスとカントとは独逸が出した思想界の偉大なる二人である。マルクスは資本論を書きカントは認識論(純粋理性批判)を書いた、世界にある著書で一番シツカリしたものはこの資本論と認識論である。どちらも頁数の多い大冊であり普通人には近寄れないほど難解の文字に充ちてゐる、けれども、どちらも間違つて居る。
マルクスもカントも大學者であり、非常に誤つたその時代の思想をより正しい方向へ啓蒙した偉人には相違ないが、併し資本論と認識論そのものは猶誤りである。而かもその誤りは資本論でも認識論でも開巻の最初にある、評判のよい難かしい偉大なる著書が、開巻の最初から間違つてゐるとは誰しも思はない事である、又マルクスもカントも非常に頭脳のよい人だから、決して論理の推論に誤りはない、唯最初の出発点となつてゐる根本の原理に誤謬があるのである、併し、この根本の原理から推論をする連中の順序や

長閑の方式に就いて為した誤り當然を一其に由て豊富しくマルクスとカントの學問は組み立てられてゐる、だから、根本の誤りを気付かずに資本論でも認識論でも読んでゆけば、唯もう感心してすつかり読まれてしまふことになるのである。

誰でも大きな著書の開巻の最初に誤りがあるとはおもはぬから、うつかり読み進むと理論が整然として少しの矛盾もないので全く感心させられて評判のよい學界の大著述を幸にも理解し得た誇りを、読書の目的と混同して忽ち大真理に到着したことゝ誤解しがちである。併しマルクスの資本論とカントの認識論はどちらも誤りである、その誤りは開巻の初めにあり、マルクスとカントは根本に誤認論があつたのである、これを明らかにし、此等に代る真理の學問体系を立てたのが私の任務である、私は規範経済學（経済學確認に其要点を簡約してある）に依つてマルクスに代る経済学、即ち人間社会の物質生活に関する學問の理論を発表し、人間美教（人生問題総解決）によつて、カントに代る人類の精神生活に関する學問理論を発表した。

私は此著書の言を誇大なる壮語とはおもはぬ、それは此書に対して非難攻撃の矢が放たれた事も聞かねば、その日の講演に　対してそこに何の反感も抱かしめなかつた事実によりて何よりも確かな証拠だと私は断定し得るのである。

惜しいかな、マルクスに走りゆく青年學徒がかうしたものを読まうとせず、彼等の指導監督の任にある是等校長級の人々もさうした書籍に近づかうとしない事である。

埼玉縣の柴山學務課長は語る、

『……唯物史観の理論どころぢやない、第一そんな名称さへも知らないものもある位だからね、啓蒙運動といつたところで中々骨が折れるよ』

私はいつた。

『骨が折れるといふことは、できないといふことではない、國家の為に萬難を排して押し切つて進まなくてはならぬ、又さう進むべきであると私は信ずる』

一野人であり、批評家として存在する私たちが力説する事を何と聞いたか、柴山氏は直ちに共鳴し賛同するものでなかつた、氏は再び私に語つた。

『……文部省に会集した各府縣の學務当局によつて果して今回の出来事に対する善後措置が講ぜられるかどうか怪しいものだ、第一集まつて来た人々の顔觸れを見ても、其のいふところを聞いてみても何だか心細いような感じがしたね……』

私は此謹み深き一語によつて甚だしき失望を感ぜざるを得なかつた、かうした人が文教行政の事に携はつて居る事に極度の淋しさを感じたのである。

柴山氏は他を語る積りであつたらう、併し私にはそれが最も雄弁に柴山氏自らを語つた一語に聞き取れた。

由来学務課に居る人たちは身を持する事極めて謹厳であらねばならぬ、自ら省みる事頗る厳に、他を語ること最も慎重ならねばならぬ。

校長級の人たちと年若き教員との間に思想の乖離があらうといへば、それは当然過ぎたる当然の事で何ともしようがないといひ、よし仮令校長級の人たちが自省して、新らしい智識を獲得し、孜々として時代に遅れざらんことを力めたとしたところで、新らしい人たちは古き人のいふ事に耳を傾けない、傾けても彼等はまるで範疇のちがつて居る人だとして受け入れようとしないからだめだといふ。

嗚呼是れ学務当局として啓蒙運動に対する絶望の叫びではないか、此絶望の叫びをする人が文部省の指示に従ひ、テキストをつくつたり校長会を開いたりする、私にはそれが何の意義をもつかわからない。

思想の啓蒙は形式的の言動ではだめだ踏み迷うたら若き人々を呼びかへすには、そこに熱と力とが充溢した精神運動でなくては効果がない、精神の空虚な人によつて此精神運動を期待することは無意味である。

五、赤化教員の歩んだ道

——深き浅き意識のいろいろ——

埼玉県で赤化教員と目をつけられた十訓導の中で、元兇と目されて危く治安維持法違反に問はれ起訴せられんとした所沢尋常高等小学校訓導関口幸市(二四)は、埼玉県師範学校を昭和四年の春卒業したのであるが、在学中已にさうした方面の研究に興味をもち、切りに左傾派の著書などを渉猟してゐた。

卒業直後は北足立郡内間木小学校に就任して、翌五年九月新興教育研究会の講演会が、浦和町の埼玉会館で開かれた時いの一番に入会を申込み、仝会本部との間に連絡をとり、自分の宅へも頻繁に本部員の来訪を迎へ、進んでそれ等の人々から指導を受けてゐた。

その頃から自分より一年おくれて卒業した彼等友人の中から、左派に投し来るであらう人々を物色して渡りをつけ、徐ろに同志の獲得を図つてゐた。

昭和六年三月新興教育研究会が解消して合法性を失つたので、秘かに次の組織に着手せんとした時、偶々入間郡災沢小学校に転任となり、五月に入つてからまづ仝郡奥富小学校訓導相沢一夫を勧説して、共に全日本教育者労働組合に加入し埼玉支部を結成した。

更に所沢川越方面に第一班を組織して、南埼玉郡方面に手を延ばし、小林小学校訓導掛川清(二三)柏崎小学校訓導福島富三郎(三四)及び北葛飾郡栗橋小学校訓導石塚靖(三二)の三人を獲得して第二班となし、五月末に及びて全日本教育労働者組合が全協系の一般使用人組合に加盟すると共に、その組織下に隷属して指令を受け、第三班を北足立郡方面に設置して大砂土村大和田小学校訓導山岡一男(三二)大宮西小学校訓導金子業(三四)蕨第一小学校訓導新井静夫(三七)仝横川亮一(三四)の四人を勧説して加入せしめたといふ。

かくて関口幸市を中心とせる全協系の教員赤化運動は、加速度的に進展し正に燎原の火災の如く全縣下に炎え擴がらんとした時、偶々東京方面に於ける検挙から名簿の押收となり新井横川両訓導の名が発覚し、時を移さず両訓導の検挙となり、芋蔓式に上記十人の拘引を見るに至ったのである。

従つて関口幸市は埼玉支部のリーダーとして、熱心にその任務を果しただけにマルクスの思想にも比較的通暁し、唯物史観の理論をも了解し完全に全協の精神をも把握して、意識的に策動した形跡は著るしいものがある。

関口以外の九訓導は割合にその意識も低く又浅く、中には全く好奇心にそゝられて雷同附和したもののさへもあるようであつた。

けれどもかうした仲間に入つてゆく人々は何かの因縁がなくてはならぬ、関口幸市たついで相当意識の深いと見えた新井静夫について、仝人を最もよく知つてる某氏は語る。

「……新井君は其家庭も至極平和で円満な方であるし、郷党にも可なり信望のある旧家で資産も豊かに富んでる方だから、境遇上の不満や不平からあゝした仲間に入つてゆくようなわけはないので、一寸想像がつかないだらうが我々のように彼氏の性格を熟知してゐる者には、あゝなるのも無理はないとうなづける点がある。新井君は至つて感傷的の男で幼少の頃から自分は地方の資産家に生れて、何不自由なく生育したが周囲に居る小作人の窮状に胸をうたれたり地主や富豪の横暴振りにそゞろ痛憤を禁じ得なかつたといふような事も、相当多かつたらしく聞いて居る。そこへ彼氏の文藝趣味が一層油を注いでその方向をプロ文藝へと進ませたのであらうと私はおもふ……」

彼は今任地であつた蕨の寓居をたゝんで其郷家に帰り、悲しみある涙の監視を兄からうけて殆んど蟄居幽閉の状態におかれて居ると聞くが、之によりて彼の思想が一擲しようともおもへないほど、可なり深い理論闘争を我と我が心にたゝかひ続けてゐるらしい。

でも、彼の先輩であり指導者であり監督者であつた尾上校長に対しては、自分の謹しみ戒き行動からおもひもよらぬ御迷惑をかけて相済まなかつたと、涙のにじむような手紙を

よこしたから今では後悔して居るでせうと尾上氏は私に語つた。

おもうに新井は関口についでマルクスの思想もわかり、全協の精神についてもシツカリ把握した可なり深い意識をもつてゐるらしい。

同じく厳小学校に居た人でも横川亮一は全然此新井静夫とは違つて居るらしい。肥大なる体軀、慓悍なる腕力、それは柔道何段といふゆるしをとつた壮漢であるところの横川だもの、言語動作のすべてが豪傑肌であり従つて全協系に入つたことも、その豪傑的気魄が十二分に手傳つたものらしい。

『横川か？』と、彼を知るほどの人は誰でも同じように彼の浅薄を譏き、軽浮を誅する、それだけに根底も弱く統一した頭脳ももたない、だから横川はすぐあきてしまつて脱盟するに決まつて居るといふ。

田舎にくすぶつても居まいしおかれもしないから、近く東京へでも出させて彼の兄が経営してゐる無尽会社の仕事でも手傳はせようかと彼の兄は語つて居たといふ。

おもふに再余七人の訓導の中には、かうした傾向の人が大部分であらう。此意味に於て横川こそは意識の低い、いはゞ雷同附和して此仲間に加はつた人々の代表的人物と見ても誤まるまいとおもふ。

六、文教行政官は何と見たか

——その対策を如何にしたか？——

赤化教員十名を出した埼玉縣知事山中恒三氏が往訪の記者に語つたといふ事を聞くに、

『……今後視學制度を変へてゆかうといふような事は考へてゐない、小學校長に今少しく思想方面の関心をもたせることは必要であると思ふがまだ具体的には考へて居ない、いづれその方面の指導についての会議も開かれることだらうが、文部省の会議が了つてからのことだ、あんなところに走つてゆく原因はいろ〳〵あるとおもふ、家庭の事情が面白くない、環境に恵まれてゐない、そこへもつて来て教育制度のどこかに誤謬を見出す……但しこれは当つてゐるかどうか自から別問題だが……更に社会組織への若気の不満などが加はつてつい無分別なことをする、左への先走つた若いものをおだてる者の存在することがもと〳〵宜しくない……』

と、つく居た、そこへ埼玉縣学務部長松平外與麿氏は左の聲名書を出した。

今回縣下小學校教員の間に不祥事件を起した事は誠に遺憾に堪えぬ次第であるが、其範囲極めて少数で其程度は比較的軽微であつたことは不幸中の幸であります。

事の起りは勿論関係教員が若年にして思想がまとまらなかつたのと、現実社会の事象が煩雑で之を正しく批判し理解する素質の能力に乏しかつたのが原因であるが、一面本縣の地理的関係上不健全分子の誘惑に乗ぜられ易かつたことも見のがす事ができないのも原因の一つであるとおもふ、之が縣下教育界の革正を主とし、信実、必罰の精神と本人の将来と更に広く國家社会全体に及ぼす影響とを考慮して、十名の関係職員に職を退いてもらふことに致しました。

調査の結果、彼等は前非を悔悟してゐるのでありますからして、縣民諸氏は寛容の態度を以て彼等を阻害排斥することなく、忠良なる臣民として活動するよう同情をもちて善導されん事を希ふ次第である、今後の対策として本問題に関しては最近文部省に於て開かれる関係諸府縣学務課長会議等を参考として取敢へず適当の機会に校長会議を開催し今回の真相を諒知せしめ、又思想方面に及ぼす年少教員の指導等につき篤と協議したいつもりであります。

又之を機として縣下六千の教育者并びに縣民各位と協力して教育諸般の刷新改善を企て今後一層着実穏健なる態度を以て教育界の成績向上に努めん事を念願するのであります。

以上知事の談話、学務部長の聲名によつて文教行政にあたる上司の人々が如何なる眼を以て赤化教員事件を眺めて居るか、そして之が対策として何をなさんとするかもおぼろげながら察知し得る事である、而して今や四ヶ処で開いた小學校長会も終了した。

最終の九月三十日は久喜高等女學校に開いた北葛飾南北埼玉三郡の百二十六小學校長及び其他各學校の校長が集まつたのであつた。勿論此会合に於ても型のようにマルキシズムの梗概を短い時間で講演したり、全協の解剖批判を試みたり、さては又今回の教員赤化事件を、ひとり埼玉縣のみに限らず、東京府を初め各府縣にもちあがつた問題について語られた事であり、縣で秋かに特輯刊行したテキストも配られたのである。

然るに校長会終了するや、北葛飾南北埼玉三郡教員会の名を以て、かうした事案を惹起した事を遺憾とし次のような決議が満場一致で成立した。

今回縣下同職の教員中不健全なる思想に惑溺し、不謹慎なる行動に奔らんとするものを生じ、司直の検察を受け遂に其職を退きし者を出すに至りしは吾人の痛恨に堪えざる所なり、世相日々に複雑多難此の種誘惑の魔手今後益々繁からんことをおもひ、吾人は此に一層の緊張を致し統督の実を挙げ、以て再び今回の如き不祥事を惹起せざらんことを期す。

之を読んで小学校長会の功果が頗る甚大なるものであつた(?)とおもはしめられた。私は再び柴山学務課長を訪ふて此事を談じた。

『どうでした?』四ヶ所の校長会で相当功果を挙げられるようですが』

『功果といったところで、さう早く挙げらるゝものでもないし、こんな事は一朝一夕にはいかないでせう、第一福本イズムのイズムが何だかわからない先生を対手だからね』

『併し、三郡教員会では対策決議までやつたぢやありませんか、偉い反響ですね』

『あゝ、あれか?』あんな事はやらなくてもいゝ、といったんだがね、でも彼も大分文章を縮小させたのです、原案はまだ〳〵具体的のものでしたが……』

と語尾は消えて何だかくすぐつたいような態度に見て取つた。

此情景によつて私は斯うした決議が如何なる心境によつて決議されたかを十分に想像することができた、さうして斯種の決議が大した力のあるものでもないと学務当局もまた十分に認識してゐる事実の反映を眺めた。

そこに私は見のがすべからざる所謂対策の缺陥を認めた、総じて真剣味がない、形式的である、そんな事では生命を賭してもと全然真摯な気持に動いて居る全協あたりの戦に対して何をなし得るものか、思想視学をおくのおかぬのといふような問題では決してない。

七、児童と家庭にどう響いたか

—踏み迷うたる若き教員は?—

新井横川の両訓導を出した蕨第一尋常高等小學校では、尾上學校長が憂はしげに児童と家庭とに対する影響についてかういつて居た。

『何分、両訓導とも五学年六学年といふ上級児童の担当でしたから、今回の事件が起るとすぐ、新聞は大きな活字を用ひて仰々しく書き立てるし、其新聞記事が児童にも読まれて今日の出来事は明朝はわかつてしまふといふわけで実に面食ひました……』

『で、学校ではあの問題が起つた時児童に向つてどういふ風に扱はれましたか』

『どうもそれが一番当惑した事でしてね、併し秘密にする事はもうできなくなつたし、黙殺するといふわけにもゆきませんから、全校の児童をあつめて私はかういひました、新井先生と横川先生とに何か間違ひがあつたらしいが、併し間違ひといふものはどうしたハヅミでどんな事から起らぬとも限らない、皆さんのお父さんやお兄さんの上にでもそんな事があつてはならぬが、萬々一にもさうした不幸な事が起つた時にどういふ心もちで居るべきか、それが今の皆さんに課せられた問題なのである、静かに、謹んで事

の成行きをながめて居らねばならない、決して軽はづみな事をしてはいけない、、、、」

かういつて児童としての態度を訓へてやりました、さすがに皆が皆シンミリしてよく私の気持を呑み込んでくれたようでした、父兄の事を引合に出すのはどうかと考へさせられたのでしたが、さうより外にいひ方がなかつたのでした、、、、」

さすがに伏目勝ちな尾上校長の一語一語が微かにふるえて居た、私は続いて訊いた。

「東京府では、五日市小学校の浦辺訓導が自宅に受持ち生徒を集めて、それとなく左傾思想を注ぎ込んで居た形跡があつたといふので、担当学級六学年生の中で六人までも警察署の喚問取調べを受けたといふ事実があるが、こちらではどうでしたか?。」

「幸にそんな事はありませんでした、それにいろいろの方法で児童を検討して見ましたが思想の上に悪い影響を受けたといふ事は認められないようです」

「家庭に対する影響はどうでした?。、、、私は今汽車の中で蕨に下車する二人連れの人が此問題について語りあつてるところを聴いてゐたが、何サマ重大事件のように甚く一般家庭に衝撃を与へてゐるようぢやありませんか」

「さうです、二十年来学校がかち得た町からの信望は一挙にして失はれたわけです、何としても遺憾千萬で町の人たちへ対して私は顔向けもできなくなりました、今も保護者

会の人が見舞やら善後策の進言やらに来てくれて、釈明の為に会合でも催したらといふ意見もありましたが、此際は何もいはないで唯々謹慎してゐるより他ありません」

「新井横川両訓導の担当は持上りでしたか」

「私は今まで持上りで授はせてゐました、だから新井君は今の生徒を丁度五年半続けて教育してゐるわけです、級の統一ができてその方がいゝ、とおもうて居ましたが今度の事から居へさせられるようになりました」

「で、担当の方法を変へますか?。」

「イヤ、そこまではまだ決心がつきません」

「事件後の両訓導に対しては、どういふ態度で居られますか」

「勿論、年若き両君の前途について無関心で居るわけにはゆかないとおもひますし、新井君の宅へは一度訪ねてもやつたのでしたが、その事が若し世間へ洩れでもしたら、忽ち大問題となつて困るのです、実際一般の人たちは非国民のように考へてゐますから、我々でも往復したり交渉をもつたりすると同じように非国民扱ひにされる惧れがありますからね、そんな事で一挙手一投足も慎まなければならぬ。」

尾上氏は戦々恟々として両氏との交渉さへも世間に知れてはならぬと身構へてゐた。

それが必らずしも尾上氏のエゴイズムの相だとは断定しない、けれども誤つて横道にそれていつた年若き教員を、唯徒らに異端者扱ひにし、非国民呼ばはりをしてゐる思慮浅き世間の批判に共鳴して、指弾して顧みないとしたら彼等の前途はどうなるであらうか？　理解のない人には真の同情も起るものでない、真の同情があつたならばさうした態度がとれない筈だと私はおもふ。

私は此事について縣學務課の柴山課長にも訊いて見た、けれども彼氏の答へは、他の問題で罷免したり失職したりしたものまでかまはないでゐて思想問題でつまづいた人たちを特に面倒を見るのでは公平をかくからと、そこは矢張り通り一片の官吏気質で眺めてゐた。

新潟縣では成績を見て代用教員につかつて居るのもあるさうだが、他府縣では絶対に用ひないようだ、本縣などでは第一町村の方で受け入れないからと附け加へてゐた。

私はかうした問題を教員の失業問題として考へてゐるのではない、如何にして彼等の思想を轉向せしめ得るかといふ事を国家的見地から、もうつと高く大きく考察して見たいのであつた、悲しいかな尾上學校長は自分の地位といふ事に考へ過ぎて、柴山學務課長は官吏意識に囚はれて月並みな答へしか与へてくれなかつた、かうした人たちに思想問題の対策が立つか私は実に心細い感じがする。

八、現下の二大問題を何と観る

——教育関係者の一顧を求む——

私は今此稿を以て本巻の結論をつけたいとおもふ、時偶々商大學生の街頭デモと警官隊の衝突したニユースを聞き、内務省土木局の技師連中などが結束して行政整理断行に反対の気勢を煽りて来たといふ事実を見せつけられた。

三井三菱両大財閥に某々二氏を訪ねて、日銀利上げの事やインテリ層赤化の事を談じた序でに話題は轉じて斯の問題にも言及した。

某氏はいふ、商大の學生があれほどの騒ぎをして學校を死守したつて結局就職口はどこにあるとおもうて居るだらうか、畢竟国家に対して就職不能の智識階級粗製濫造をやめるなといふ叫びに過ぎないぢやありませんか。

某氏はいふ、内務省が土木局の方へ大鉈を入れるのが不都合だといつて技師連までも闘争態度に出るようでは、すべての事が力でゆけ結束の力でゆきさへすればなすとして成らざることなしといつた態度ではありませんか。

私は某々二氏が政治家よりも教育者よりももつと深く国事に関心をもつて居るようにお

もうた、東北仙台では近く全日本の教員大会を開く、そこへ埼玉県の教員会が待遇改善の提案をするとニュースは報じて居た。

こんな事を考へ合はせて見ると、教員赤化の対策などは空疎な愛国論や、伝統的な日本精神の高唱などでは所詮だめである、どうしても理論闘争からたゝかひぬく事を考へなくてはいけない、それにはマルクスの唯物史観も其真実性の認むべきは認むる方がよい。

私はこゝに岡本利吉君がサラリーマン唯物史観と題して論じた中の一節を引用して、敢て読者の一顧を煩はしたいとおもふ。

……サラリーマン唯物史観は五十パーセントの真実さである、残りの五十パーセントに望みをかけてサラリーマン粗製濫造工場の学校を操業短縮させようか、けれども、そんなことは不可能である、これも亦五十パーセントに確実な唯物史観の団結である。

今日の学校はサラリーマン・インテリ、並びに就職不能の智識階級を粗製濫造する矛盾の存在である、それでも之を廃止することは政治が地方の一般投票を買収せねばならぬ唯物存在の社会関係に在る限り、絶対に不可能である、大蔵省も文部省も政党も地方庁も新聞紙も学徒も誰でも忠義の意識をもつてはゐるが、社会的存在が彼等の意識を団結させてもうどうすることもできない、腐れた家が毀たれて新らしく建て直されねばならぬ運命が

避け難くなつた、問題は毀れた後にどんな家を建てるかたゞこれだけである。

朽ちたものは必らず毀れる、バチルスと寄生虫が蕃殖し過ぎれば外科手術をしてももう間にあはない、資本制生産は妥協しても変革しても遺憾ながらもう生命維持の方法はない

問題は葬式後の跡始末である、全く新らしいものを建てる準備、できれば毀れるのを待つ前に進んで積極的に新らしいものを明日より建て始める計劃に着手し、もし之に全人類大衆が意識を一致させ得るならば、また毀れるまでには幾許かの時間があるから、その前に積極的な新らしい建設を始め、老人や子供の家族共に雨露の苦痛をかけずに済むであらう。

新らしく建てるものは、再びバチルスの喰ひ入らぬ堅固なコンクリートとして搾取の黴も生えぬように、乾燥機の装置もせねばならぬ、全人類社会の永久安定と幸福を保証するには、再建設の図案と意匠に深い工夫と熟慮を要する、新しい建設が又バチルスや寄生虫や矛盾や撞着や内部の軋轢に食ひ潰されるようではいけない、我等の再建設には絶対にブルヂョア意識と同時に極微量にもサラリーマン意識の存在を許してはならぬ、農村を基本とした全人類の共働と、完全なる自治のみが断然とサラリーマン意識を駆逐して全人類生活の安定と幸福を永久に保証する。

資本論のマルクス経済学には建設と幸福との原理がない、又ブルジョア経済学の悉くは

戦争の合理化である。戦争のない全人類生活の永久安定と幸福に関する理論、之については過去の経済学は右翼と同時に左翼のものに何らの研究と提案もなかった。だから、アナーキストは不都合な現状さへ破壊すれば義務の多い建設の骨折をしなくても、何かしら善いものが自然に生れ出るとユートピアの待望をする。その時マルキストは未来を構想する彼等をユートピアと笑ふ。

小島には大島の心理が判らぬ如く、何も知らぬアナーキストやマルキストや、並びに凡てのブルジョア経済学者には、未来を語るはユートピアとしかなかった。けれども真に正しい経済科学が確定すると気象台の報告よりも正確に、全人類の未来の物質生活を永久の安定と幸福の上に決定するところの全人類共働の規範生活方式が判明するのである。農村を基本とする萬人労働の、全人類の普通意識による、農村部落生活團体の共働組合と其聯合が唯一の正しい真理の建設であり、之が唯物史観の五十パーセントを超えて、普通史観の百パーセントの正確さで、明日からの我等の任務を決定する、サラリーマン、インテリー諸君も幸か私のいふことが判れば諸君の存在は食ひ潰し以上に意義あるものとなる。

以上は岡本利吉君の『サラリーマン唯物史観』の結論である、私は氏の意見のすべてを肯定するものではないが、今の小学校教員諸君及び之に関係ある人々に一読をすゝめる。

現代パンフレットの使命

現代の世相を在りのまゝに報道するもの……時には誇張したり、創作を交へたりすることもあるが……には多くの新聞紙がある、けれども新聞記事を鵜呑にしては危険な場合がある、さうした世相を眺めて一々批判を加へ、時の問題を捉へて機敏に報道し批評して行くのが此現代パンフレットの使命である。

社友小規

一、以上の使命を理解し、此パンフレットの存在意義を認め、本社を支持援助する人を社友とす。

二、社友は月額金一円（年額十円、半年金五円五十銭前拂）を醵出する普通社友と、その倍額を負担する維持社友と、それ以上一時寄附随時寄附等によりて援助する翼賛社友とに分つ。

三、普通社友には毎月三回定期刊行するパンフレット配本し、維持翼賛両社友には随時刊行する特輯版をも全部贈呈す。特輯版の中無代配本する分は勿論普通社友にも配本すべし。

四、定期刊行のパンフレットは毎冊四五十頁とし、特輯版は二百頁以上に及ぶこともあるべし。

五、会計上の事はすべて新東京社（振替東京六六九五一番）にて扱はしむ。

東京市赤坂區傳馬町一ノ二
電話青山七三九六
現代パンフレット通信社

埼玉縣浦和町四六六
振替口座東京六六九五一番
新東京社

岸田菊伴著

共産党秘話

東京赤坂溜馬町一 現代パンフレット通信社

四六判総ポイント

全一冊 百三十頁

定價金五拾銭

郵送料金四銭

主要目次

○何故此秘話を語らんとするか、○伯父に対する不満のS青年、○悲喜交々到る保釈許可決定の刹那、○金が仇敵の世の中か、○鈴木文治君を罵るK・○恵まれたる家庭に生ひ立つた独り息子、○俳人芭蕉と詩人西行を談ず、○レニンの兄と其母、○浴槽で話題になつたK文學士、○共産党員の妻は必ず入党させる、○共産主義と大化の新政、○愛妹の死と老父の情けに泣くK、○母の涙に悔ゆるK青年の悩み、○私の眼に映つた共産党被告の種々相、○あらゆる機会を掴むに敏き共産党の戦術――――等

岸田菊伴監輯

現代パンフレット

四月中旬版

流血共産党事件

六月中旬版

日本共産党を如何に観る

八月中旬版

共産党の崩壊を語る

此のパンフレットは分冊販賣をせず毎月金一円也の会費を負担する社友のみに配本するのであるが、此際社友に加入する方及び共産党秘話を申込む方には上記三冊を実費金一円にて頒つ部数に限あり申込急ぐ。

注文方法

振替口座東京六六九五一番へ壹円五拾銭拂込まるれば右四本を送る。

發行所 申込所 埼玉縣浦和町四六六 振替東京六六九五一 新東京社

現代パンフレット既刊書目

極弁事件の真相を語る
流血共産党事件
京電疑獄と島徳事件
犯罪に絡まる夫婦相
引かれものゝ小唄
有罪か無罪か
正力と三木と中島
性慾犯罪女房殺し
日本共産党を如何に観る
京成電車乗入問題
満蒙を如何するか
共産党の崩壊を語る
インテリの赤化

発行所 埼玉県浦和町 新東京社 振替口座東京一五九六六番

マルクス資本論厳正批判

岡本利吉著
附録 サラリーマン唯物史観 世界終末唯物史観 等々
四六判 三百五十頁
定價金一円 送料八銭

難解に見える資本論全三巻の重要部分を悉く抜萃し、それに平易な註解と厳正な批判を施す。机上にして資本論を真理の鏡の前に立たすと、難解でもなんでもない、今秋第一の読み物は本書だ。

岡本利吉著
五版 農村問題総解決
農村問題の一切を解決する最高権威の方針書
四六判 三百五十頁
定價一円 送料八銭

発行所 純真社 東京市深川区富川町三一 振替東京四八九〇〇番

編輯後記

○此パンフレットの編輯を了した時、又々東京府下三河島町でも小学校教員の赤化事件が暴露した。まだ頭はれない問題がどれだけあるかわからないと心から憂慮に堪えぬ。

○

○東京市疑獄事件の第一審判決は下された、無罪僅かに二名、而して控訴実に三十五名に及んだといふ、判決の当不当は俄かに断ずべからざるも不満の多い事は確かである。

○

○我等は次巻『東京市疑獄事件の判決を聴く』に於て、我等独自の批判を試みたいと思ふ、而して被告弁護士等々の思想をも盛り込んで見よう、蓋し悲喜交々到る場面の展開。

○

○続いて下旬級で発表する『潰滅疑獄秘話』は星亨のタマニーホールに初まつて昭和の五大疑獄に及ぼす我等独自の潰滅疑獄観である、必らずや諸君の期待にそひ得るだらう。（岸田菊伴）

昭和六年十月七日印刷
昭和六年十月十日発行（非賣品）

埼玉縣浦和町四六六
著者 岸田三治

仝 所
発行人 垣内賢一

仝 所
印刷人 垣内新一

発行所
東京市赤坂区傳馬町一ノ一
現代パンフレット通信社
電話青山七三九六番

埼玉縣浦和町四六六
新東京社
振替口座東京六六九五一番